

『太平經抄』 読書会@二〇二一年六月二十六日

担当…日比野晋也

『太平經抄』 丁部卷之四 十b 二行目く十一 a 九行目○

△原文▽

人生備具陰陽、動靜怒喜皆有時時、未牝牡之合也。是陰陽當主爲生生之效也。天道三合而成、故子三年而行。三三爲九、而和道究竟。未知牝牡之合、其中時念之、未能施也。天數五、地數五、人數五、三五十五、而內藏氣動。四五二十、與四時氣合而欲施、四時者主生、故欲施生。五五二十五、而五行氣足而任施、五六三十而強。故天使常念施、以通天地之統、以傳類、會三十年而免。老當衰小、止閉房內。天下蚊行之屬、人象天地純耳、其餘不能也。

△書き下し▽

人生まれ陰陽を備具し、動靜怒喜は皆時有るも、時に未だ牝牡の合ならざるなり。是れ陰陽當に主に生生の效と爲すべきなればなり。天道は三合して成る、故に子三年にして行く。三三九なれば、和道究竟するも、未だ牝牡の合を知らず。その中時にこれを念ずるも未だ施すこと能わざるなり。天數は五、地數は五、人數は五、三五十五なれば、內藏の氣動く。四五二十なれば、四時と氣合して施せんと欲す。四時は生を主り、故に生を施さんと欲す。五五二十五なれば、五行の氣足りて施に任じ、五六三十なれば強し。故に天は常に施を念じ、以て天地の統を通らせ、以て類を伝え、會は十年にして免ず。老は當に衰え、小し止房内を閉じ、天下蚊行之屬、人のみ天地純を象どる。其れ餘は能わざるなり。

△訳▽

人は生まれながりにして陰陽を俱備している。動靜怒喜は皆な相応しい時期がある。まだ男女の交わりは知らない。それは陰陽の氣が主に生成の作用をするからである。天道三合して成る、だから子供は三才になると歩きたすことができる。三三九才となると天道と地道の中和の氣は極まるが、まだ男女の交わりは知らない。その中、時々そのような念が起きてもまだ精を施すことはできない。天の數は五、地の數は五、人の數は五であり、三五十五になると、こ内藏の氣が動きます。四五二十となると、四時と氣を合して精を施すことができるようになる。四時は生を主るので、人を生成しようとするの

である。五五二十五となると、五行の気が備わり、精を施すのは自在となり、五六三〇になると生成の氣は豊かとなる。そのため天道は常に生成の作用を念じ、天地すべてに通らせ、すべての存在にあたえ、陰陽の会合は三十年後（六十才）になると（子孫を残す役割を）免じることとなる。老人は精力が衰えるので、房内の子作りの働きは止める。天下の生き物のなかで、人のみ天地の純をかたどったものであり、その他の生物はできないのである。

△注▽

『太平經』（『合校』P.148）「氣之法行於天下地上、陰陽相得、交而為和、與中和氣三合、共養凡物、三氣相愛相通、無復有害者。」

太平經鈔

元氣恍惚自然，共凝成一，名爲天也；分而生陰而成地，名爲二也；因爲上天下地，陰陽相合施生人，名爲三也。

「怒喜」

王充『論衡』卷六「雷虛篇」

「人君賞罰不同日，天之怒喜，不殊時，天人相違，賞罰乖也。且怒喜具形，亂也。惡人為亂，怒罰其過，罰之以亂，非天行也。」

「牝牡之合」

『老子』五十五章

「含德之厚，比於赤子。蜂虿虺蛇不螫，猛獸不據，攫鳥不搏。骨弱筋柔而握固。未知牝牡之合而全作，精之至也。終日號而不嘎，和之至也。知和曰常，知常曰明，益生曰祥。心使氣曰強。物壯則老，謂之不道，不道早已。」

「天数五、地数五」

『易』「繫辭傳上」

「天一地二，天三地四，天五地六，天七地八，天九地十。五位相得而各有合。天数二十有五，地數三十，凡天地之數，五十有五，此所以成變化，而行鬼神也。大衍之數五十，其用四十有九。分而為二以象兩，掛一以象三，揲之以四以象四時，歸奇於扚以象閏。」

「內藏」

『管子』「內業篇」

「不治必亂，亂乃死。精存自生，其外安榮，內藏以為泉原，浩然和平，以為氣淵。淵之不涸，四體乃固，泉之不竭，九竅遂通，乃能窮天地，被四海。」

「主生」

『春秋繁露』「五行對」

「天有五行，木火土金水是也。木生火，火生土，土生金，金生水。水為冬，金為秋，土為季夏，木為春。春主生，夏主長，季夏主養，秋主收，冬主藏。藏，冬之所成也。是故父之所生，其子長之，父之所長，其子養之，父之所養，其子成之。諸父所為，其子皆奉承而續行之，不敢不致如父之意，盡為人之道也。故五行者，五行也。」

「施生」

『白虎通特論』「五行」

「水、木可食，金、火、土不可食何。木者陽，陽者施生，故可食。火者，陰在內，金者陰齎吝，故不可食。」

《淮南子·天文訓》：「蚊行喙息，莫貴於人。」

《文選·嵇康琴賦》：「感天地以致和，況蚊行之眾類。」李善注：「凡生之類，行皆曰蚊。」

漢王充《論衡·奇怪》：「牝牡之會，皆見同類之物。精感欲動，乃能授施。」

△原文▽

故天地一日一夜共閏、萬二千物盡使生。夜則深、晝則燥。深者、陰也。燥者、陽也。天與地日共養、此萬二千物具足也、天之法、陽合精爲兩、陽之施、乃下入地中、相從共生萬二千物。其二千者、嘉瑞善物也。夫萬二千物、各自存精神、自有君長、當共一大道而行、乃得通流。天道上下、往朝其君、比若人共一大道、往朝王者也。

△書き下し▽

故に天地一日一夜共に閏（うるお）い、萬二千物盡く生ぜしむ。夜則ち深く、晝則ち燥なり。深は、陰なり。燥は、陽なり。天と地日々共に此れを養い、萬二千物具足するなり、天の法は、陽は精と合して兩と爲り、陽の施、乃ち下りて地中に入り、相い従い共に萬二千物を生ず。其れ二千は、嘉瑞の善物なり。夫れ萬二千物は、各おの自ら精神を存し、自ら君長有り。當に一大道を共にして行き、乃ち通流を得べし。天道を上下し、其の君に往きて朝するは、比して人一大道共にし、王者に往きて朝するが若きなり。

△訳▽

そのため天地は一日一夜ともにはたらき、万二千物を生ずる。夜は深く、晝は燥である。「深」とは陰である。「燥」は陽である。天と地は日々これを養い万二千物が全て備わる。天の法則として、陽は精に合して兩となり、陽氣の施しが地中に入れば、陰陽が相従い萬二千物を生み出すのである。そのなか二千の物は瑞祥となる善い物である。万二千物は、それぞれ精神の作用を備えており、おのずから君長の役割をするものがあり、一の大道を共にして（秩序よく）交流しあうべきである。（萬二千物が）天道を上下し、その君長のところへ朝謁するのは、人が一つの大道を共にして王者に朝謁するのと同じである。（十二ヶ月）

△注▽

「天使」

『左傳』「成公五年」

「五年、春、原屏放諸齊、嬰曰、我在、故欒氏不作、我亡、吾二昆其憂哉、且人各有能有不能、舍我何害、弗聽、嬰夢天使謂己祭余、余福女、使問諸士貞伯、貞伯曰、不識也」

「天地之統」

『太平經抄』丙部卷三

「夫貞男不施，貞女不化，陰陽不交，滅絕世類，二人共絕天地之統，貪虛偽之名，反無後世，失其實核，此天下大害也。天若守貞，即時雨不降，地若守貞，即萬物不生。不施不生，其害大矣。」

「萬二千物」

『太平經抄』丙部卷三

「天以凡物悉生爲富足。故上皇炁出，萬二千物異生，名爲富足。中皇物減少，不能備足萬二千物。故稱小貧。」

「嘉瑞」

王充『論衡』「變虛」

「宋景公出三善言，則其先三善言之前，必有善行也。有善行，必有善政。政善，則嘉瑞臻、福祥至，熒惑之星無為守心也。」

「往朝」

『淮南子』「道心訓」

「尹需學御，三年而無得焉。私自苦痛，常寢想之。中夜，夢受秋駕于師。明日往朝，師望之，謂之曰、吾非愛道於子也，恐子不可予也。今日教子以秋駕。」

『太平經』93

天數始起於一，終於十，十而相乘，天道到於五而反，故適萬國也。其二千國者，應陰陽更數，比若數十而終也。歲月數，獨十二也。